

2020年度しあわせ研究

武蔵野大学サステナブルキャンパス
プロジェクト

研究員 明石修

高橋和枝、白鳥和彦

住田優、足立恵介



武蔵野大学では2019年にSDGs実行宣言を発表し、様々な取り組みが行われています。本研究チームでは、武蔵野大学のキャンパスをよりサステナブルにすることを目的とした調査や実践をおこないました。初年度である2020年度は、大学のサステナビリティの現状を把握のためにエネルギー消費やCO₂排出量、廃棄物発生量といった環境負荷量の調査、学生のSDGsに関する意識と行動の調査を行いました。また、キャンパスのサステナビリティを推進する実践活動として屋上での自然共生、資源循環型の菜園の運営を行いました。

1) キャンパスのエネルギー消費量の把握とCO₂排出削減手法の検討

武蔵野大学のCO₂排出量を削減する方策として、再生可能エネルギーの導入可能性について検討を行いました。電力を再生可能エネルギー由来の電力に切り替えた場合CO₂を大幅に削減できることが明らかになりました。今後、さらに分析をすすめるキャンパスでの再生可能エネルギー利用の提案につなげる予定です。

2) キャンパスの廃棄物発生量の調査

キャンパス内廃棄物の推移(2015年から

2019年まで)を調査しました。その結果、武蔵野・有明両キャンパスでは、排出量、種類別の内訳、その推移に違いがあることが明らかになりました。今後、その原因について追加調査するとともに各キャンパスの特徴に合った廃棄量の削減とリサイクル方法の提案を検討していきます。

3) キャンパス屋上における自然菜園や養蜂の取り組み

有明キャンパス3号館屋上において、自然菜園、養蜂活動等を行いました。収穫したハチミツは青山の国連大学前で開催されているファーマーズマーケットに出店し、プロジェクトの活動を一般の方にPRしました。また、屋上に棲息する昆虫や植物の調査を行い、その結果を一般の方に分かりやすく伝えるパンフレットとしてまとめました。

4) 学生のSDGs意識・行動の調査

SDGsへの関与度と意識・行動の変容に関連する調査を、本学環境システム学科の学生、および比較として、環境経営に関する講義を受講する都内私立大学2校の学生(経営系学部)を対象として行いました。前期末・後期初めに1回目、後期末に2回目の調査を行ったところ、想像力、情報力、学習力が、いずれの大学でも向上していることが明らかになりました。今後、継続して(定点観測的に)本調査を行い、意識・行動変容に影響を与える因子・要因を探る予定です。